

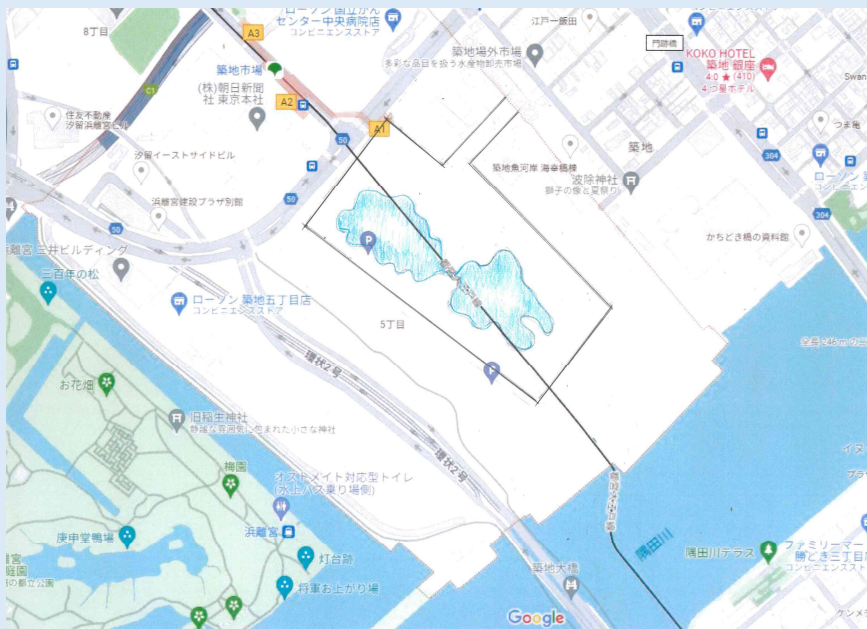


浴恩園は、秋風の池と春風の池という美しい2つの池とその間の骨格のような賜り山が四季折々の自然を繰り広げた。東京都の恩人松平定信であり白河の楽翁公（1758～1829年徳川吉宗の孫）は、築地下屋敷の庭を天下の名園へと育んだが、下屋敷は寛政3年（1791年）に將軍より賜わった地である。楽翁は士も女も浴恩園に入れて、身分を超えた開かれた庭園とした。



関東大震災前の浴恩園を上空より。海軍省の建物群に囲まれて大池や二つの池がくっきりと見える。

昭和9（1934）年、築地市場建設工事に伴う賜り山・池の護岸の保存工事。秋風の池等に跨る築山（賜り山）の堤の保存工事。左根切工事、右保存工事。築山は史跡指定され選拝所が整備。昭和11年15代牛沼東京府長が定信公のこの地を称えた書を壁面に建設したが昭和30年代に築山は整地喪失。



東京都築地市場跡地の開発用地は約21Ha、その内浴恩園は約6.1Haなので約1/3である。

ここは、本来の市民参加型の街づくりのNYのセントラルパークの様に、2/3に商業施設を入れてフィージビリティを考えた浴恩園の現地再生を考えたい。埋蔵文化財登録、東京都旧跡という文化財指定があり、土中の池は写真の様に昭和9年から90年間再生をまるで待っているようだ。浴恩園を計画の中に組み込み定信公が育てた世界的にも有名な蓮の花と共に皆で一緒に話し合おう。